

すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ? T I M E S ' 1 7

平成29年11月30日 発行

発行元: 塾熟出版(事務局)

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

高円寺コース/第4号

高円寺でカフエ

すぎなみ大人塾高円寺コース

まちなかに対話する場をつくってみよう

11月16日
@小杉湯

受講生21名

第4回 語り合いの拠点「銭湯」に暮らす

今回は、小杉湯三代目平松佑介さんをゲストにお迎えし、小杉湯のこと、銭湯暮らしのことなどをお話頂きました。



小杉湯 三代目
平松 佑介さん

1 これまでのこと

小さい頃から銭湯が遊び場で、地域の人が遊び相手であり話し相手。銭湯で育った平松さん自身の娘さんも生後4か月から銭湯に入り、常連の地域の人たちに面倒を見てもらっています。かつて各家庭に風呂がなかった時代は、銭湯には何人もの女中さんがいて、彼女たちが子どもを見、親はその間に風呂に入ったそうで、銭湯は地域のコミュニティの中心であり地域で子育てをしていたそうです。核家族化が進む現代でも、そのような子育ての形が小杉湯にはあるようです。

平松さんは小杉湯を継ぐ前は、銭湯で培ったコミュニケーション力を役立て、不動産会社で営業を、2011年にはベンチャー企業を立ち上げ、人事採用、経営等の人と組織に関わる仕事をされていました。そのお仕事の中で、世の中に新しい価値を広げるためには、新たな価値を見つけて、それを再定義していくことが大事だと学ばれた、とのこと。

例えば、タクシードライバーの仕事なら、人を運ぶ仕事ではなく、まちの困った人を助ける仕事、そしてありがとうを集める仕事という価値の転換を行い、それを社内外へ広めることで、採用増につながったそうです。

物事には、顕在化された(見える)価値とそれより多い潜在化された(見えない)価値とがあります。価格やスペックといったハード面で差をつけることで成り立っていた社会が、ソフトつまり、物事の価値やサービスに共感してサービスを選択する社会に代わってきており、目に見えない価値を見つけて形にすることが大事だと感じているとのこと。後に述べる「銭湯暮らし」で活用している築35年の風呂無アパートも、銭湯付きアパートメントと再定義することで、新しい価値が生まれる例です。

2 小杉湯のこと

去年の10月10日の銭湯の日に小杉湯を継いだ平松さん。小杉湯は、昭和8年創業。東京都の銭湯の多くがこれくらいの時期に創業されました。関東大震災後、銭湯＝「復興」のシンボルとして、銭湯を中心にまちを復興していこうという世の流れがあったようです。その考えに共感した宮大工さんが神社のような神聖な場所として銭湯を建ててくださりました創業当時のままの、天井が高い宮造りの銭湯の構造。日本人が想像する銭湯は東京の銭湯のスタイルです。

復興の中心そして社会の公衆衛生を保つ公衆浴場として銭湯が存在していた昭和45年には、2500軒(今の東京のローソンとファミリーマートを足した数と同じ)の銭湯がありました。しかし、各家庭に風呂ができた現在は570軒に減ってしまっています。



▲手書きの雰囲気が素敵な小杉湯さんの案内パンフ

▼皆で記念撮影★



○すぎなみ大人“熟”してる?の発行にあたって○ この新聞は事務局スタッフの視点と記録に基づいて作成しております。

小杉湯に訪れる人は、平日で300~400人、休日は500~600人。これは一番銭湯が多かった時代の平均利用人数と同程度です。こんなにも多くの人々が小杉湯を訪れる理由は、お客さんが銭湯の価値を再定義してくれているからだと言います。その価値とは、ウェルネス・リラクゼーション・レジャー・コミュニティの4つ。心身を健康にする場所、友人と楽しみに行く場所、そして地域とのゆるやかにつながりを確認する場所として、銭湯を捉えています。

それに対応して、小杉湯では、日替わり・週替わりの天然成分のお風呂や風流風呂（ゆず湯などの薬湯）、温冷交互浴等を提供したり、小杉湯をランニングステーション、ヨガやピラティスの会場として使用したりしています。他にも企業等とコラボして、おっぱい銭湯やプレミアムフライデー銭湯などの取組もされているようです。

平松さんがこれらの活動をされている理由は、銭湯の価値を再定義して新たな文化を作りたいから。目に見えない価値を形にすることが大切だと言われました。

3 銭湯暮らしのこと

今年の2月から始まった「銭湯ぐらし」は、銭湯と人との色とりどりのつながりを生み出すプロジェクト。小杉湯さんの隣にある風呂無アパートに、20代~30代前半を中心としたミュージシャンやカメラマンなど多様な人達に実際に住んでもらい、かつて風呂がなかった時代の公衆浴場と公共住宅の関係性を再定義した新たな銭湯の価値・可能性を見つけてもらう活動です。描く銭湯、歌う銭湯、描く銭湯など、それぞれの得意分野で銭湯の価値を高める取組をされているそうです。

社会的課題を解決してくうえで銭湯が担える部分も多い。職浴近接の銭湯のある暮らしをつくる。銭湯に集い働く、銭湯に入ることが仕事の活力になる、そんな新しい働き方の形を作りたい、と言われました。

銭湯ぐらし▼



小杉湯ファンのつながりから生まれたプロジェクト

銭湯ぐらし

銭湯が単なる清潔（水垢）の場から、心身の健康をケアする場へと変化する。銭湯が単なる清潔（水垢）の場から、心身の健康をケアする場へと変化する。銭湯が単なる清潔（水垢）の場から、心身の健康をケアする場へと変化する。

銭湯ぐらしの運営メンバー



後半は、平松さんの「潜在的価値と顕在的価値」のお話を受けて、「自分の価値・相手の価値発見ワークシート」を記入し、グループで話し合いました。後半の実践に向けてお互いのことを知り合う良い機会になったのではないのでしょうか？

受講生の皆さんの感想

・とても充実していて濃厚な時間でした。顕在的価値はすぐ見つかりますが、潜在的価値を見つけることは難しかったです。日頃からのトレーニングが必要ですね。小杉湯の平松さんのアイデアの無尽蔵な感じに圧倒されました。グループワークでもさまざまな人のお話を聞けて刺激になりました。

・今日はまず、講師の先生が若くて、これだけの銭湯が先駆的な試みをされていることに驚きました。そして、お話しと取組の数々にとても興味をそそられ、たくさん気づきを持つことができました。後半の「潜在的な価値」のグループワークでは、10人近くのお話を聞いて、とても楽しかったです。また、いろいろな人とお話しできればと楽しみにしています。



♪高円寺コース 運営メンバーのご紹介♪

高円寺コースは、大人塾卒業生や高円寺地域の方々にご協力いただきながら企画・運営しています。今号から順次、ご紹介していきます。

朝枝晴美

趣味は、お習字、バルーンアート、そして「社会教育での学び」です。仕事は、福祉の相談窓口で勤務しています。毎回運営側でありながらも講座に参加して、まちの資源、可能性にふれ、私自身もともに学んでいるようで、第3フェーズがとても楽しみです

湊 真澄

東中野在住、杉並在勤です。大人塾で、地域をどっぷり意識した講座は今回が初めてで、皆様は記念すべき第1号です！色々な可能性を秘めたまち高円寺で、新しい自分を皆様と一緒に発見していきたいです。

全日本つづあん連盟会長（自称）、会員募集中！